

## 公開セミナー要旨集：

K. フダイベルガノフ（ヒヴァ・イチャンカラ国立歴史建築保護区博物館筆頭専門家・ウズベキスタン）

### 「ヒヴァーウズベキスタンの世界遺産都市」

この映画では、古くから人々が暮らす、ウズベキスタンの「大空の下なる博物館」都市ヒヴァについて紹介される。ドイツ人旅行者ビッツマンはこう記している。「私は多くの国を訪れた。けれども、ヒヴァのような都市をはじめて目にし、驚嘆した。一つの都市に二つの城塞、すなわちイチャン・カラとディシャン・カラ。建築遺構の偉容は、われわれの記憶に一生残ることだろう。」

3千年の歴史をもつこの都市は、荒野のただなかに建設された。その建設者は、全世界をおおった大洪水を生き延びた預言者ヌーフ（ノア）の息子たるサームであったという。

20世紀の初頭にハン国の首府であったヒヴァは学問と教育の一大中心地となり、21世紀の初頭にそれは世界観光の中心地の一つとなった。ヒヴァには毎年、80カ国以上から旅行者が来訪する。

ホラズミー、ビールーニー、ザマフシャリーのように、この地から輩出した大学者たちは世界中でよく知られている。（木村暁訳）

R. M. ムスタフィナ（ユーラシア国立大学教授・カザフスタン）

### 「カザフスタンのイスラーム宗教施設の活動について」

近年のカザフスタン各地のモスクに関する民族誌学調査の結果、宗教施設の活動に大きな変化の見られることが明らかになった。新しいモスクが開設され、建設されている。以前と違って、すべてのモスクは伝統的なモスクとしての地位を強化し、そこでは歴史的に中央アジア地域に形成されたハナフィー学派のイスラームが説かれている。イスラーム宗教施設は、カザフスタンのイスラーム的伝統を普及すべく積極的な活動を行っているが、それはカザフ人の民族（エスニック）文化の諸条件のなかで成立し、存在しているものにほかならない。

発表ではパワーポイントを使用する。（小松久男訳）

A. E. クバトヴァ（クルグズ共和国科学アカデミー・歴史・文化遺産研究所・クルグズスタン）

### 「現代クルグズスタンの文化と伝統の継承」

クルグズ共和国は、中央アジアの東北部に位置するユニークな山岳国である。自然の美しさと立地からときにスイスと比べられることもある。これは早くも1928年、ときの人民委員会議長（首相）でクルグズの傑出した政治家ジュスプ・アブドゥラフマノフが語っている。クルグズスタンにはヒマラヤ山脈やパミールの高山に次ぐパペーダ（勝利）峰

(7439m) やレーニン峰 (7134m) があり、面積では世界有数の地上氷河イヌリチェックがまさに世界的な知名度を誇っている。

現代のクルグズスタンは、国民が教育と学術、文化に大きな関心をよせる国となっている。ソ連からの独立以来、大学の数は急増していまや 52 校に達している。そのうち 36 校は国立で、学生数はおよそ 22 万人である。クルグズ・ロシア (スラヴ) 大学やクルグズ・トルコ・マナス大学、クルグズ・トルコ・アラトー大学、中央アジア・アメリカ大学など国際的な共同大学も機能している。

またソ連時代に創設されたクルグズ藝術・演劇専門学校や音楽学校、造型学校、映画学校も活動を継続している。

クルグズスタンは現代国家であるとはいえ、人々の日常生活のなかではしばしば伝統文化の諸要素に出会うことができる。それは結婚式のような家族の祝い事や祝賀会、追善行事、祝日などのときである。民族的な伝統や慣習は、過去の遊牧的な生活様式と密接に結びついている。今日まで伝承されているものには、コムズ奏者の独特の流派やアイトゥシュ (楽器コムズの伴奏で行われる言葉のかけあい)、英雄叙事詩のマナス語りなどがある。

発表ではパワーポイント用いる。

(小松久男訳)

#### N.V. マトヴェエヴァ (ロシア・タジク (スラヴ) 大学祖国史・国際関係講座准教授)

##### 「タジキスタンの教育システムの成立と発展におけるロシアの教育家・学者たちの貢献—過去・現在・未来」

中央アジアにソヴィエト政権が樹立されると、ポリシェヴィキは政治、社会・経済そして文化の領域で根本的な改造を推し進めた。多民族からなるソ連邦において民族間の文化的な不平等をなくすという課題を荷ったのは、ロシア・ソヴィエト社会主義共和国連邦であった。ロシアは共産党の指令に従い、より進んだ民族の一員として自発的にそして何よりも自覚的に、後れていた民族にさまざまな特典や優待、資金的な助成を提供しなければならなかった。文化革命を実現する上での最大の問題は、現地住民はほとんど読み書きができなかったことである。その特殊性と困難さは、文盲の克服が初等・中等教育と学術の形成と並んで進行したことにあった。ロシアの教育家と学者たちの主要な成果とは、初等、中等、高等教育機関網を短期間に作り上げたことである。ソ連時代はロシア語で教育を受けるのに困難をとまなうことはなかった。

ソ連邦の解体後、旧ソ連諸国の多くで急速な非ロシア化が始まった。タジキスタンにおいてロシア語は個人間、民族間、国家間交流の手段であるが、ロシア語の話せる市民の数は著しく減少した。タジキスタン共和国憲法 (1994 年 11 月 6 日、第 2 条) によれば、ロシア語の公的な地位は民族間交流語である。しかし、言語法 (2009 年) は、その使用領域を制限しており、社会生活のあらゆる領域でもっぱら国家語のタジク語が機能しているのである。

タジキスタン大統領エモムアリ・ラフモンの大統領令によって、ロシア語はすべての普

通教育学校で必修として教えられなければならない、大学にはロシア語での学習グループが作られている。未解決の課題は、遠隔の地方ではロシア語教員がいないことである。またロシア語で教育がおこなわれているタジクの大学では教師のロシア語の素養が十分ではない。一方、タジキスタンでは1996年に最初の国家間協力による普通教育施設、ロシア・タジク（スラヴ）大学が開設され、そこではロシア語で教育がおこなわれている。さらにドゥシャンベには、M. ロモノーソフ名称モスクワ国立大学、モスクワ鋼鉄合金大学、モスクワ・エネルギー大学などモスクワの主だった大学の分校が開設されている（順に2009年、2012年、2014年）。21世紀に入って現地住民の間にはロシア語学習への関心が急速に高まっているが、それは若者や中年層の人々が自分のこれからの人生を就労や教育、ロシアでの永住の可能性と結びつけて考えているからである。（小松久男訳）

## S. トゥイリエフ（トルクメニスタン国立音楽院作曲講座上級講師・トルクメニスタン）

### 「トルクメン音楽の諸ジャンルおよび少女の歌「リャレ」」

トルクメンの音楽芸術は、プロフェッショナルな民俗音楽と民間伝承の諸ジャンルからなる。

プロフェッショナルな民俗音楽に分類されるのは、ドゥタール、ギジャーク、ガルギ・トゥイドックのための曲やバフシの芸術である。それらを演奏するのは職業的な音楽家であり、彼らは幼少時から師匠の元で何年も研鑽を積む。研鑽を終了した音楽家は、師匠（ハルパ）から祝福の辞（パタ）を授けられる。

一方、トルクメンの民間伝承歌は、より庶民的なジャンルであり、大衆的な特徴を持っている。民間伝承歌には、日常的な歌、労働歌、わらべ歌、哭歌、婚礼歌、季節行事の歌、少女の抒情歌などが含まれる。

民間伝承歌の中でも、少女の抒情歌「リャリエ」は、その特別な詩情によって傑出している。

本発表では、民間伝承歌の様々なジャンルの例を示すとともに、「リャリエ」を作曲にどう用いるかについて紹介する。

発表にはパワーポイントと動画を用いる予定である。（東田範子訳）